

# 国立公園六甲山・摩耶山の活性化のための 交通の将来像と実現に向けた取組内容 (報告)

令和6年2月

六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会

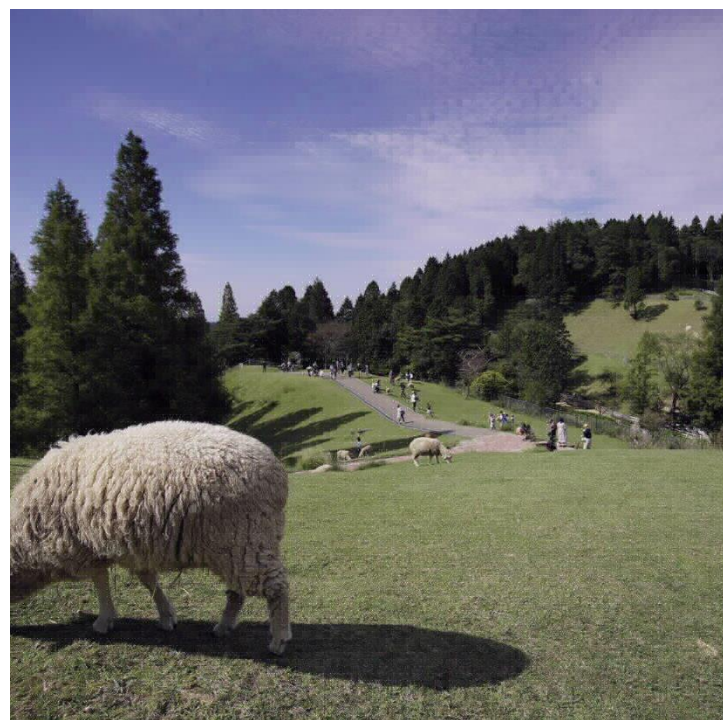
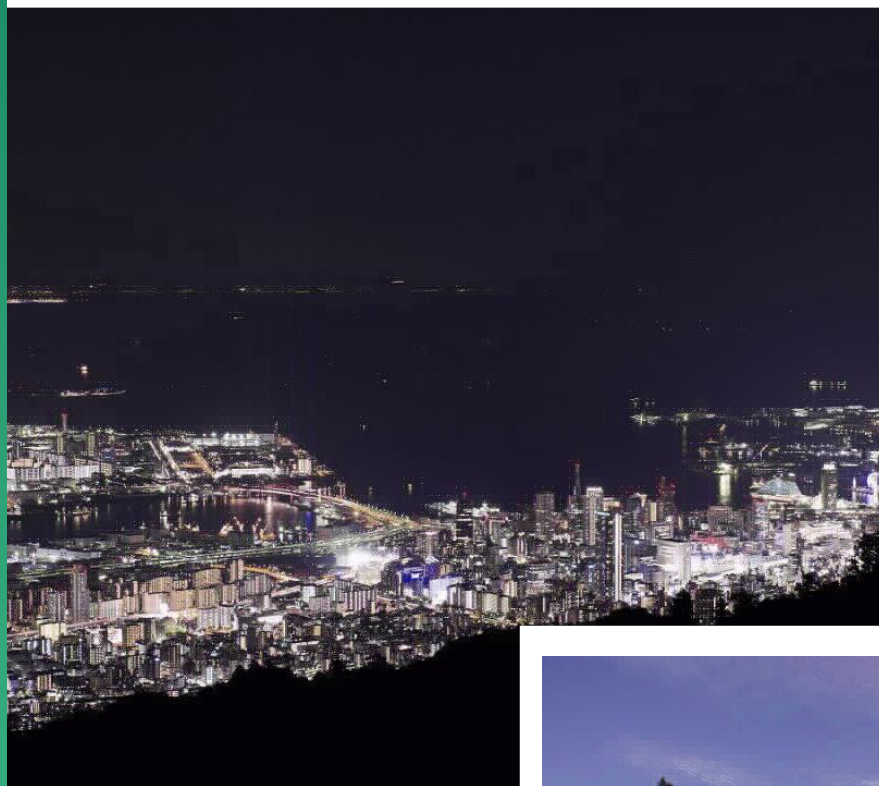
# 国立公園 六甲山・摩耶山の 活性化に向けて

六甲山・摩耶山は瀬戸内海国立公園内に位置しており、大都市の近郊にありながら、豊かな自然が保全されるとともに、様々なレジャーが楽しめる「都市山」であり、大きな需要を創り出すポテンシャルを持った貴重な観光資源である。

そのような、魅力ある自然を活用し、自然保護との最適なバランスを保ちながら活性化を図ることを目的として、六甲山の目指すべき方向性とそれを実現するための方策について策定された『六甲山ランドデザイン（2019.3）』をはじめとして、六甲山・摩耶山では、山上の活性化に向けて、さまざまな取り組みが行われている。

活性化をさらに促進するためには、移動を支える交通も重要な要素のひとつであり、「六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会」において、2021年から検討を行ってきた。

このたび、山上の更なる活性化のための交通の将来像や実現に向けた取組内容について、検討会での意見をとりまとめたので報告する。



# 回遊を促進する 交通軸の形成

神戸のステージを大きく前進させ、神戸市全体の活力を向上させるために、街や海から山へのストレスフリーなアクセスが求められる。神戸の持つ「海・まち・山が近い」という特性を十分に活かすため、神戸空港から三宮・新神戸、そこから六甲山・摩耶山、有馬温泉までを繋ぐ広域的な交通軸を形成し、回遊を促進することが重要である。

2025年には神戸空港の国際化も控えており、神戸の街に訪れる人が気軽に山に登れる、海と山の両方を楽しめる、そのような魅力ある交通軸の形成が求められる。



# 六甲山・摩耶山の交通の将来像

回遊を促進する交通軸を形成し、六甲山・摩耶山の活性化を促進するため、SDGs※の観点も取り入れ、環境効率の良い公共交通で市街地から山上にスムーズにアクセスでき、山上全体を快適かつ自由に移動できる交通環境づくりが求められる。

また、六甲山・摩耶山の各エリアの特性に応じた交通環境づくりにより、山上を訪れるたくさんの方々にいろいろな目的地を周遊しながら楽しんでいただき、山上の活性化につなげていくことが必要である。

※：持続可能な開発目標

## 六甲山・摩耶山全体

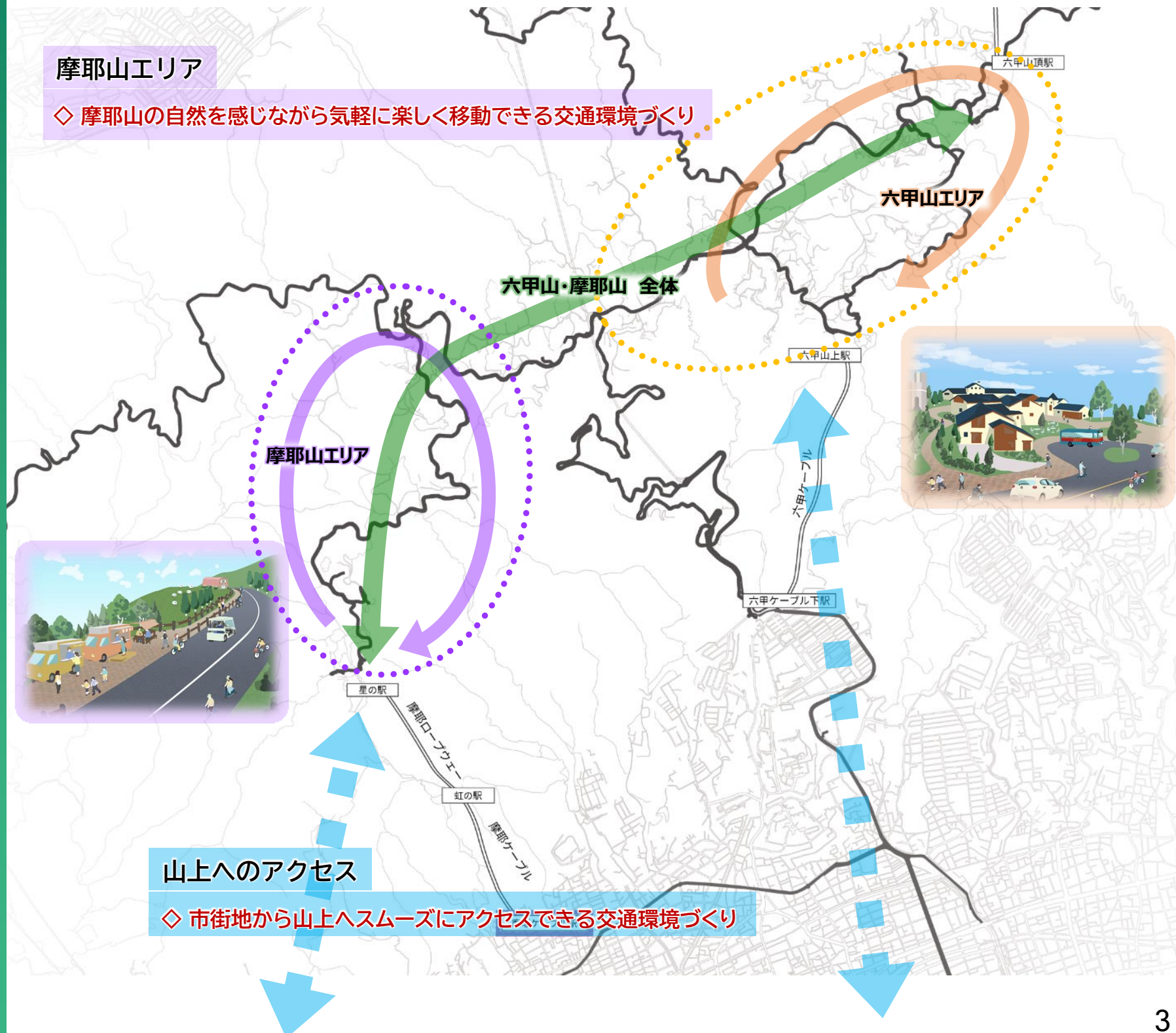
◇ 山上全体を快適かつ自由に移動できる交通環境づくり

## 六甲山エリア

◇ 観光・ビジネスなどの各拠点間をシームレスに移動できる交通環境づくり

## 摩耶山エリア

◇ 摩耶山の自然を感じながら気軽に楽しく移動できる交通環境づくり



## 山上へのアクセス

◇ 市街地から山上へスムーズにアクセスできる交通環境づくり

# 需要にあわせた 段階的な 交通体系の構築

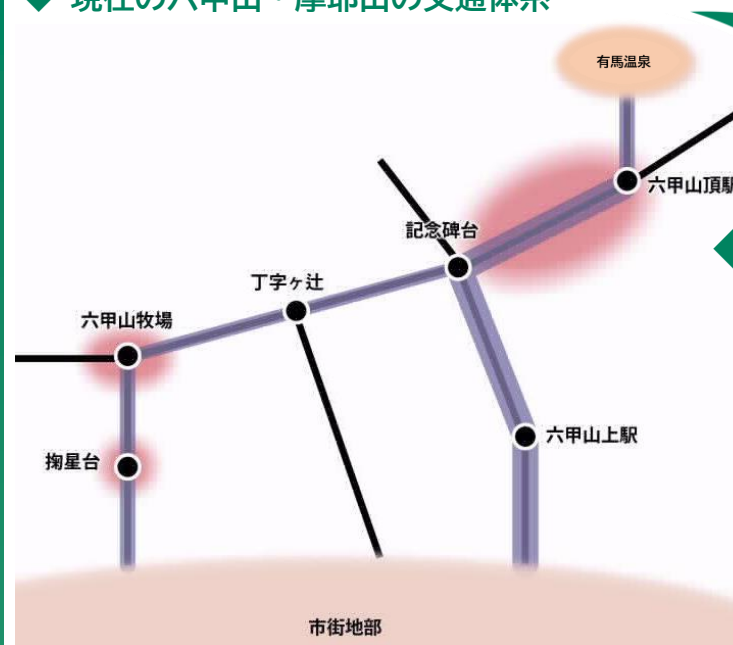
六甲山・摩耶山の交通の将来像の実現に向けては、山上における将来的な需要にあわせて、段階的に交通体系を構築する必要がある。

短期的には、六甲山牧場～記念碑台間の需要にあわせた路線バスの再編・増便により、利便性や、山上全体の回遊性を向上させるとともに、摩耶山においては需要に応じた乗って楽しめるモビリティを導入し、山上の魅力向上を図ることが望まれる。

中長期的には、都心から山上へのダイレクトなアクセス手段を整備するとともに、摩耶山と六甲山を結ぶ山上の公共交通の利便性をさらに高め、市街地から有馬温泉までを繋ぐ広域的な交通軸を形成することが望まれる。

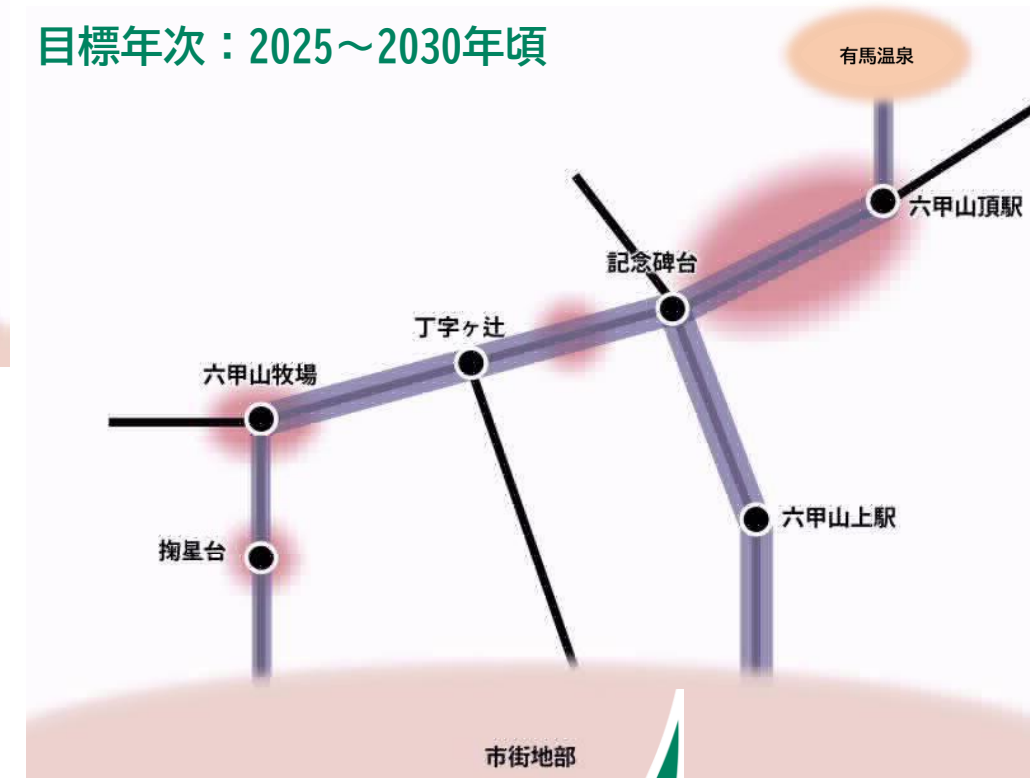
あわせて、適正な自動車利用の促進や、交通と山上施設が連携した一体的なサービスの展開を進め、山上全体の活性化が促進されることを期待する。

## ◆ 現在の六甲山・摩耶山の交通体系



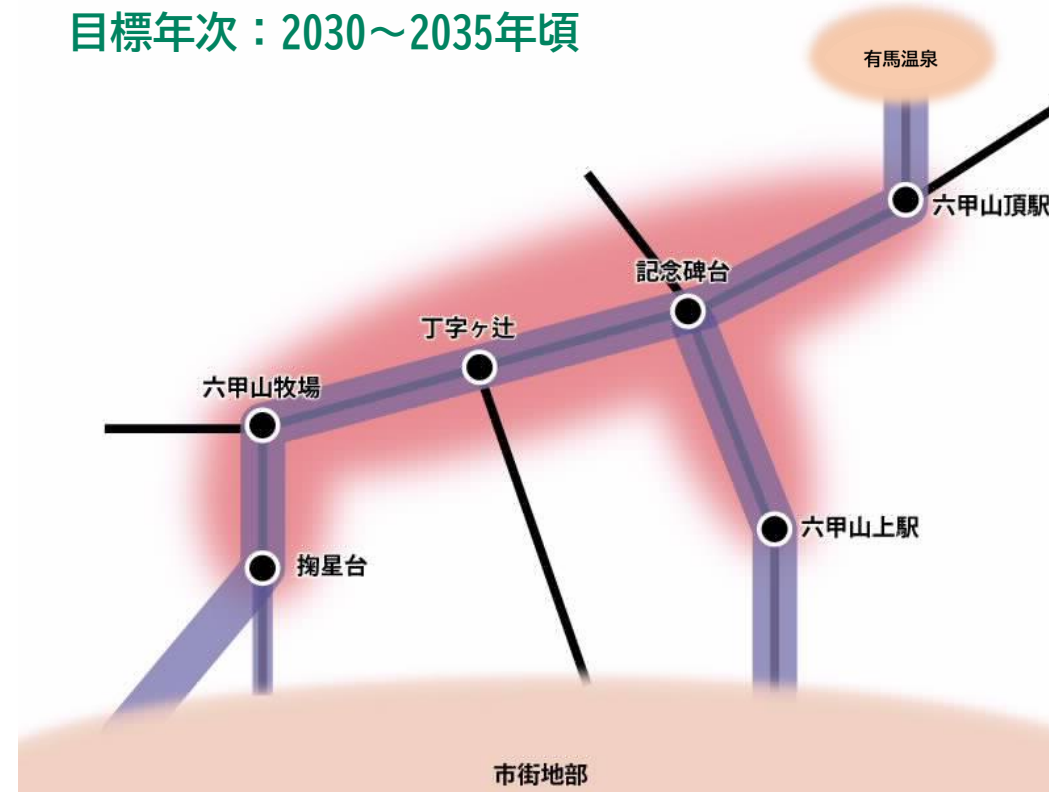
## ◆ 六甲山・摩耶山の交通体系（第1段階/短期）

目標年次：2025～2030年頃



## ◆ 六甲山・摩耶山の交通体系（第2段階/中長期）

目標年次：2030～2035年頃



— 公共交通軸

● 需要

# 交通の将来像の 実現に向けた 取組方針

六甲山・摩耶山の交通の将来像の実現にあたっては、今後想定される、運転手不足の深刻化や、新たなモビリティの技術革新、脱炭素化に向けた取組の動向等を踏まえつつ、各交通手段がそれぞれ最適な役割分担のもと一体となった取り組みを進める必要がある。

検討会では、

- ・市街地から山上へのアクセス向上
  - ・エリア特性や需要に応じた山上交通の充実
  - ・繁忙期の渋滞抑制に向けた適正な自動車利用の促進
  - ・交通と山上施設の連携による一体的なサービスの展開
- の4つの取組方針のもと、六甲山・摩耶山の交通の将来像の実現に向けた取組内容について議論を行った。

## 取組方針1

### 市街地から山上へのアクセス向上

<取組内容>

- 市街地からケーブル駅へのアクセス向上
- 都心から山上へのダイレクトなアクセス手段の整備

(出典) 箱根ロープウェイホームページ



## 取組方針2

### エリア特性や需要に応じた 山上交通の充実

<取組内容>

- 山上における需要の動向にあわせた公共交通の再編
- 各エリアの特性に応じた新たなモビリティ等の導入



## 取組方針3

### 繁忙期の渋滞抑制に向けた 適正な自動車利用の促進

<取組内容>

- 駐車場の適正利用の促進と駐車需要への対応
- 山麓や山上でのパークアンドライド※1の促進



## 取組方針4

### 交通と山上施設の連携による 一体的なサービスの展開

<取組内容>








- 交通、観光などのサービスを一体的に提供するMaaS※2の推進
- 六甲山・摩耶山の活性化に向けた体制の強化



※1：郊外の自宅から最寄駅の鉄道駅・バスターミナルまで自動車を運転して、駐車場に駐車（パーク）し、そこから電車・バスなど公共交通機関を利用（ライド）する移動方式。

※2：地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資するもの。

# 各段階で 実施すべき 取組内容

取組方針	第1段階/短期 目標年次：2025～2030年頃	第2段階/中長期 目標年次：2030～2035年頃
<p><b>取組方針1</b></p> <p>市街地から山上へのアクセス向上</p>	<p>○ 市街地からケーブル駅へのアクセス向上</p> 	<p>○ 都心から山上への直接的なアクセス手段の整備</p> 
<p><b>取組方針2</b></p> <p>エリア特性や需要に応じた山上交通の充実</p>	<p>○ 山上における需要の動向にあわせた公共交通の再編</p> <p>〔 来訪需要の動向に合わせた再編 〕</p>  <p>○ 各エリアの特性に応じた新たなモビリティ等の導入</p> 	<p>〔 都心から山上への直接的なアクセス手段の整備による来訪需要増加に合わせた再編 〕</p> 
<p><b>取組方針3</b></p> <p>繁忙期の渋滞抑制に向けた適正な自動車利用の促進</p>	<p>○ 駐車場の適正利用の促進と駐車需要への対応</p> <p>○ 山麓や山上でのパークアンドライドの促進</p> 	
<p><b>取組方針4</b></p> <p>交通と山上施設の連携による一体的なサービスの展開</p>	<p>○ 交通、観光などのサービスを一体的に提供するMaaSの推進</p> <p>○ 六甲山・摩耶山の活性化に向けた体制の強化</p> 	

# 取組方針 1

## 市街地から山上へのアクセス向上

短期

### 取組内容

六甲山・摩耶山の更なる活性化を促進するためには、いかに市街地からスムーズで快適に山上に到達できるかが重要なポイントになる。

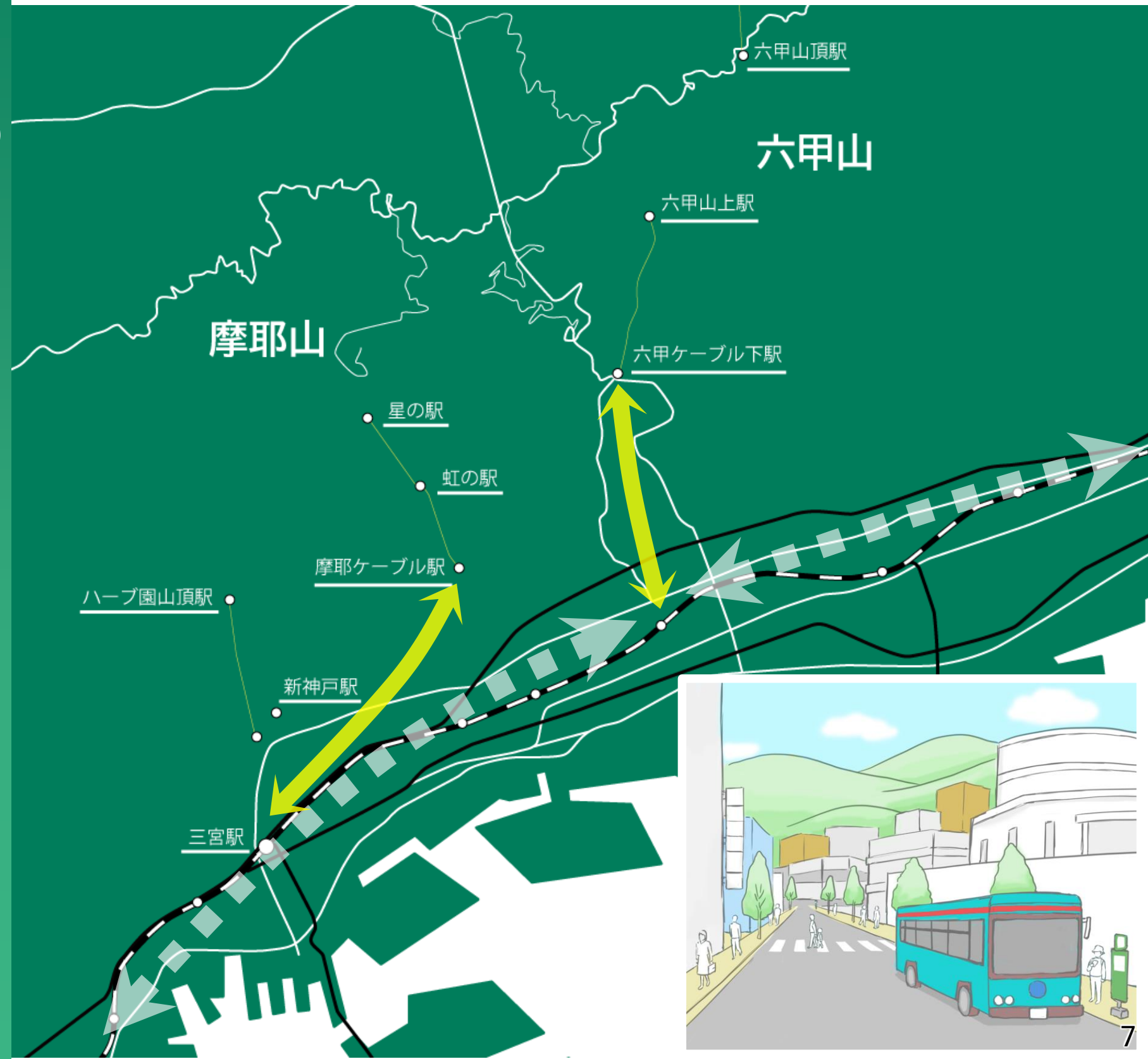
そのため、公共交通により、市街地から山の玄関口であるケーブル山麓駅、さらには山上へのアクセスの向上を図っていくことが求められる。

短期的には、鉄道駅からケーブル山麓駅を結ぶ路線バスのダイヤの見直しにより、ケーブルとの乗り継ぎ利便性の向上を図る必要がある。また、快適に移動ができ、これから山へ向かうという楽しみを喚起するような車両を導入することが望ましい。

短期

### ◆ 市街地からケーブル駅へのアクセス向上

- ケーブル下駅までの路線バスのダイヤを見直すことで、ケーブルとの乗り継ぎ利便性を向上
- 鉄道駅からケーブル駅までを快適に楽しみながら移動できるような車両を導入





# 取組方針 1

## 市街地から山上へのアクセス向上

中長期

### 取組内容

六甲山・摩耶山の更なる活性化を促進するためには、いかに市街地からスムーズで快適に山上に到達できるかが重要なポイントになる。

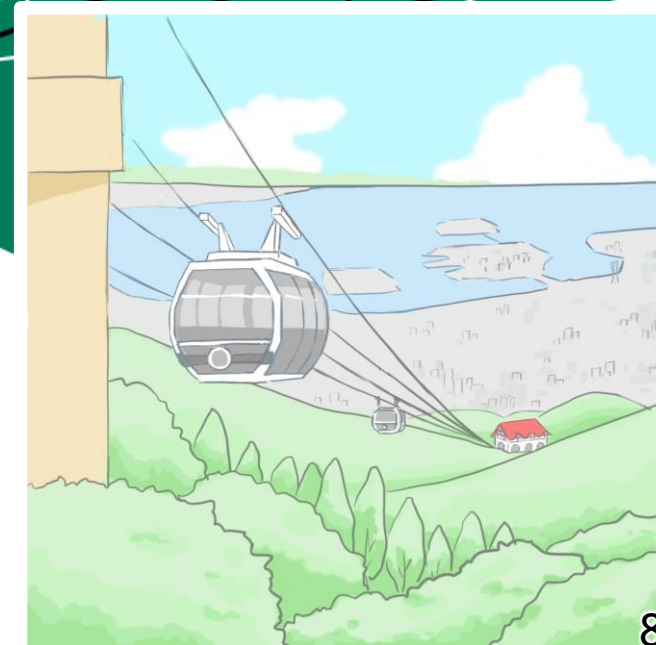
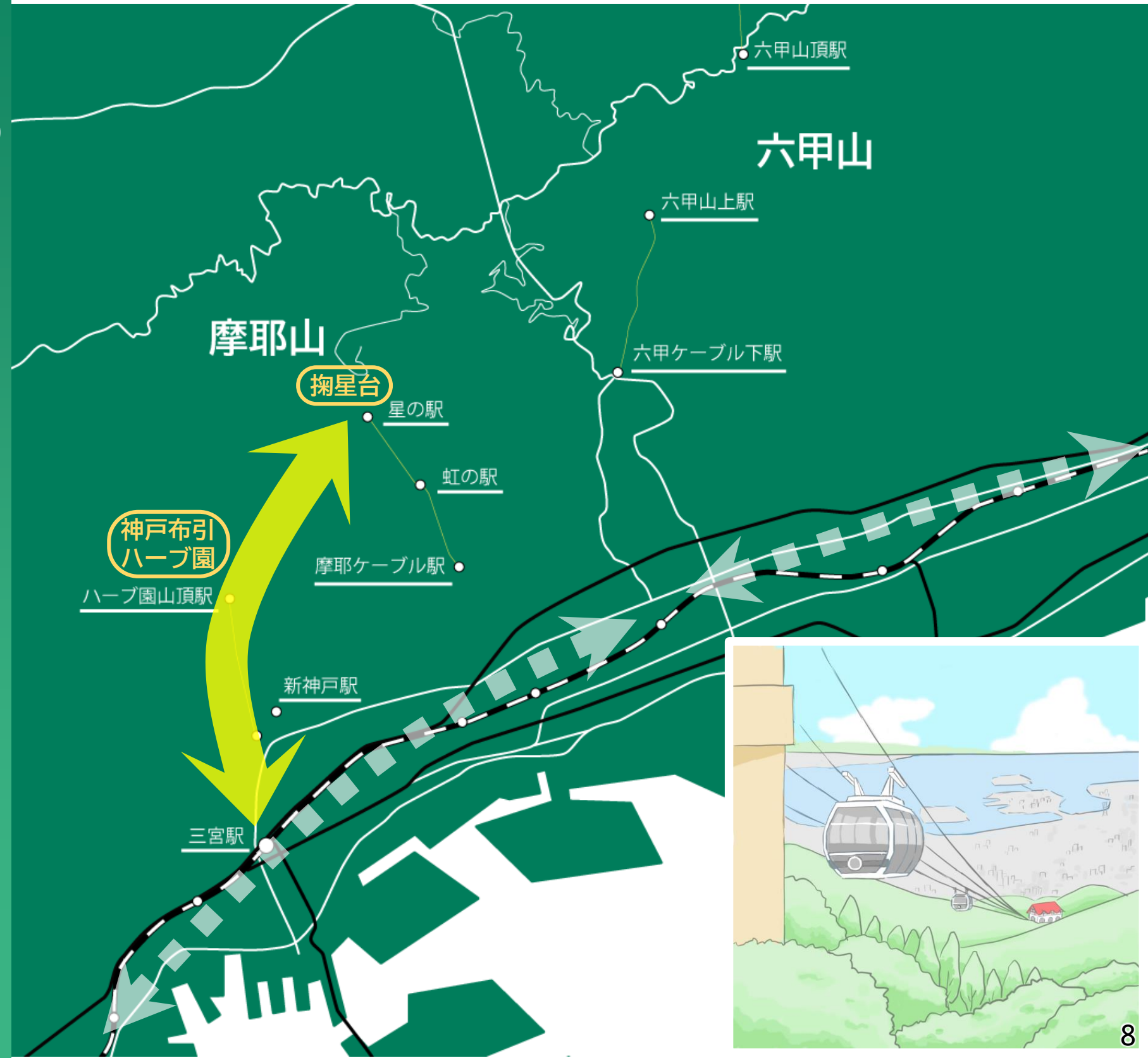
そのため、公共交通により、市街地から山の玄関口であるケーブル山麓駅、さらには山上へのアクセスの向上を図っていくことが求められる。

中長期的には、神戸空港から三宮・新神戸、六甲山・摩耶山、有馬温泉までを繋ぐ交通軸を形成するため、広域交通拠点である新神戸駅と掬星台をダイレクトに結ぶアクセス手段として、新たなロープウェーの整備が望まれる。

中長期

### ◆ 都心から山上へのダイレクトなアクセス手段の整備

- 広域交通拠点である新神戸駅から神戸布引ハーブ園を経由して掬星台まで結ぶ新たなロープウェー「ハーブ園接続ルート」を整備



# 取組方針 1

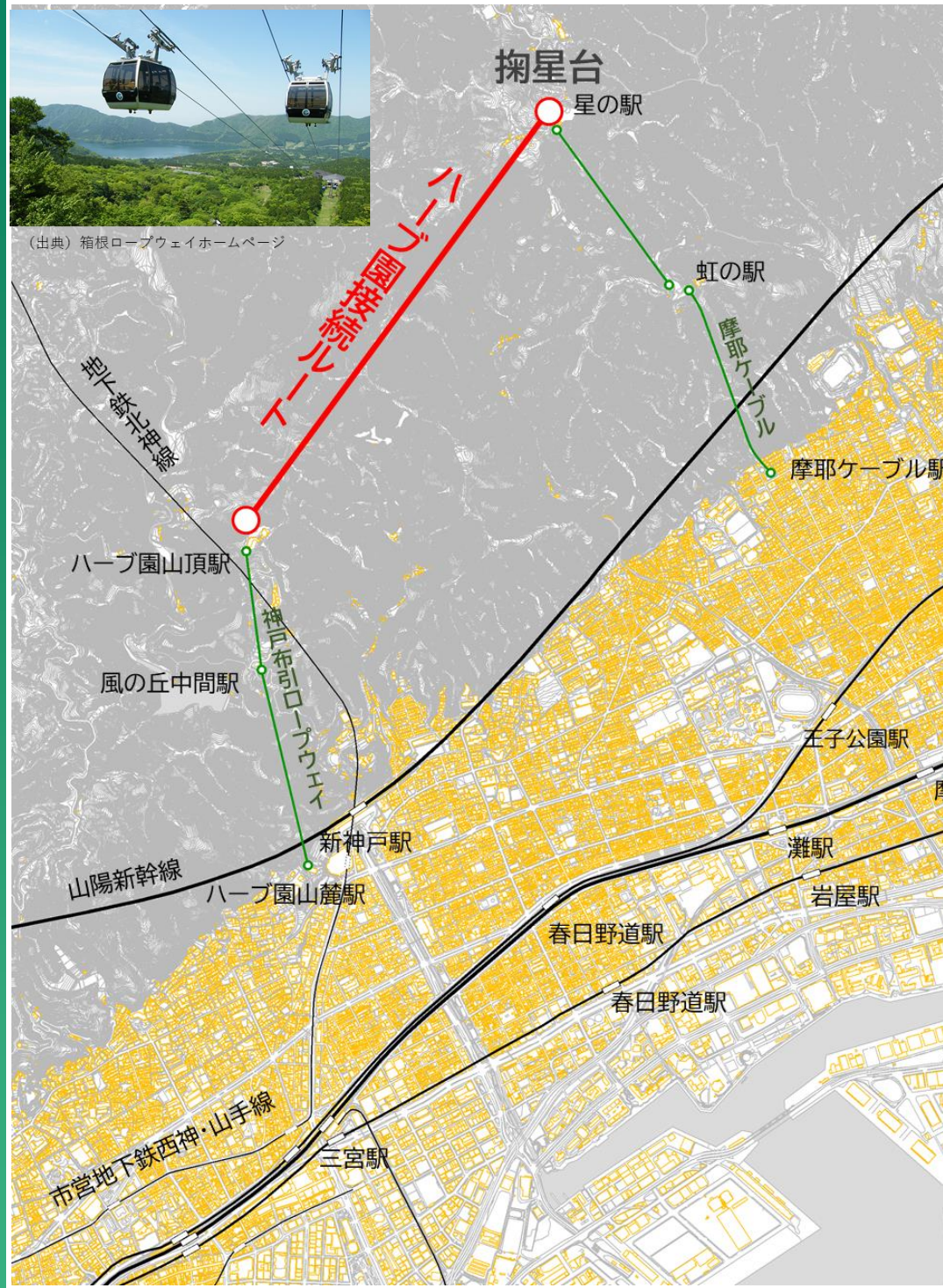
## 市街地から山上へのアクセス向上

中長期

### 新たなロープウェー「ハーブ園接続ルート」の概要



### ルート図



### ルート仕様

索道方式	複式単線自動循環式（下図参照） 複数の搬器が一定間隔で循環する方式 ・山折れ・谷折れ勾配への対応が可能 ・耐風性は～25m/s
水平長 傾斜長	2,356m 2,414m
搬器定員	18人/便*
最大運行頻度	約40回/時*
最大輸送力 （片側）	約800人/時
三宮から掬星台 までの乗車時間 （乗継時間含まず）	三宮～山麓駅（鉄道）約5分 山麓駅～山頂駅（RW・RW）約20分
概算建設費	約90億円
年間経費	約2.8億円 （約3,100時間/年 ＝神戸布引ロープウェイ）

※最大運行頻度・搬器定員は神戸布引ロープウェイの輸送力（約1,000人/時）を踏まえて設定

### 想定需要及び事業採算性

（想定需要）

最小 20.3万人/年 ～ 最大 30.4万人/年

※想定需要は新ロープウェーが整備された場合の需要のみ考慮しており、摩耶山上の再整備等により更なる需要も見込まれる

（事業採算性）

試算では運行経費が運賃収入で賄える見込み

※建設費の事業者負担なし（公設民営で建設費の償還や固定資産税等は発生しない）と仮定



# 取組方針 2

## エリア特性や需要に応じた 山上交通の充実

短期

### 取組内容

来訪者の山上での回遊を促し、更なる活性化に繋げていくためには、山上を自由に往来でき、スムーズに移動ができるよう、山上交通の充実を図る必要がある。

また、バス事業者を取り巻く状況が厳しい中、エリア特性や需要に応じた最適な役割分担のもとで、公共交通を再編していくという視点も求められる。

短期的には、六甲山牧場～記念碑台において、山上の活性化に伴う需要の増加にあわせて路線バスの再編・増便等により、利便性や、山上の東西の回遊性を向上することとあわせて、六甲山牧場～掬星台には、移動手段としてだけではなく、摩耶山の魅力向上につながる資源となるような、乗って楽しいモビリティの導入を進めることが有効であると考えられる。

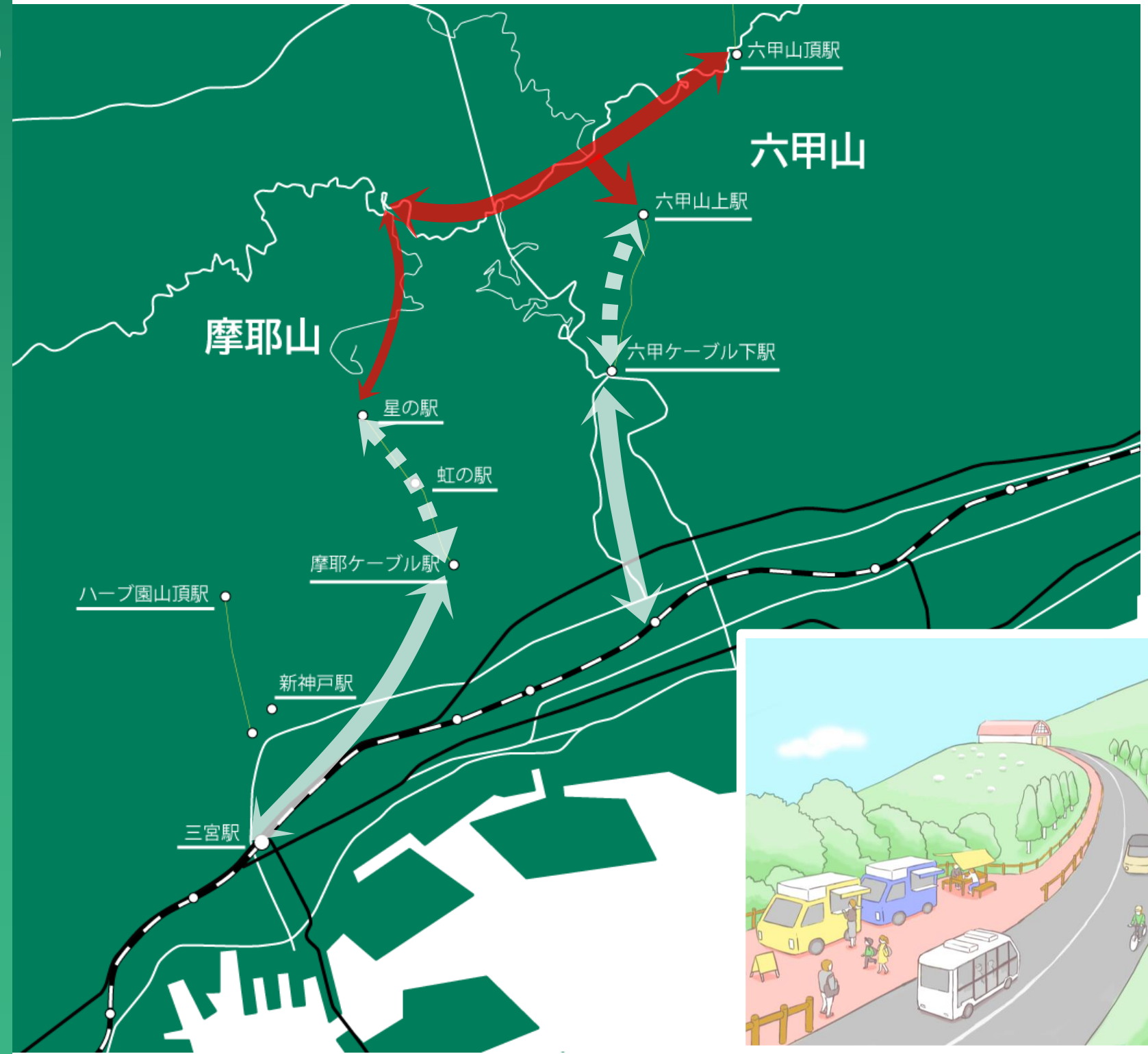
短期

### ◆ 山上における需要の動向にあわせた公共交通の再編

- 六甲山牧場～記念碑台において、山上の活性化に伴う需要の増加にあわせて、六甲摩耶スカイシャトルバスの再編・増便等により、利便性を向上
- 東西の回遊性を高めるため、六甲山上バス・六甲摩耶スカイシャトルバスのダイヤを連携させ、乗継利便性を向上

### ◆ 各エリアの特性に応じた新たなモビリティ等の導入

- 六甲山牧場～掬星台には、需要にあわせて、グリーンスローモビリティなど、摩耶山の自然を感じながら乗って楽しい新たなモビリティを導入



# 取組方針 2

## エリア特性や需要に応じた 山上交通の充実

短期

2022年・2023年に実施した交通社会実験

### 実施した取組及び効果

#### (実施した取組)

##### 「山上の路線バスの再編・増便と乗継利便性の向上」




六甲摩耶スカイシャトルバスを、六甲山牧場～六甲ケーブル山上駅の折り返し運転とし、1時間あたり3便に増便することで、六甲山上バスとの乗継利便性※を向上  
 ※2022年は記念碑台、2023年は六甲ケーブル山上駅で乗継改善を実施

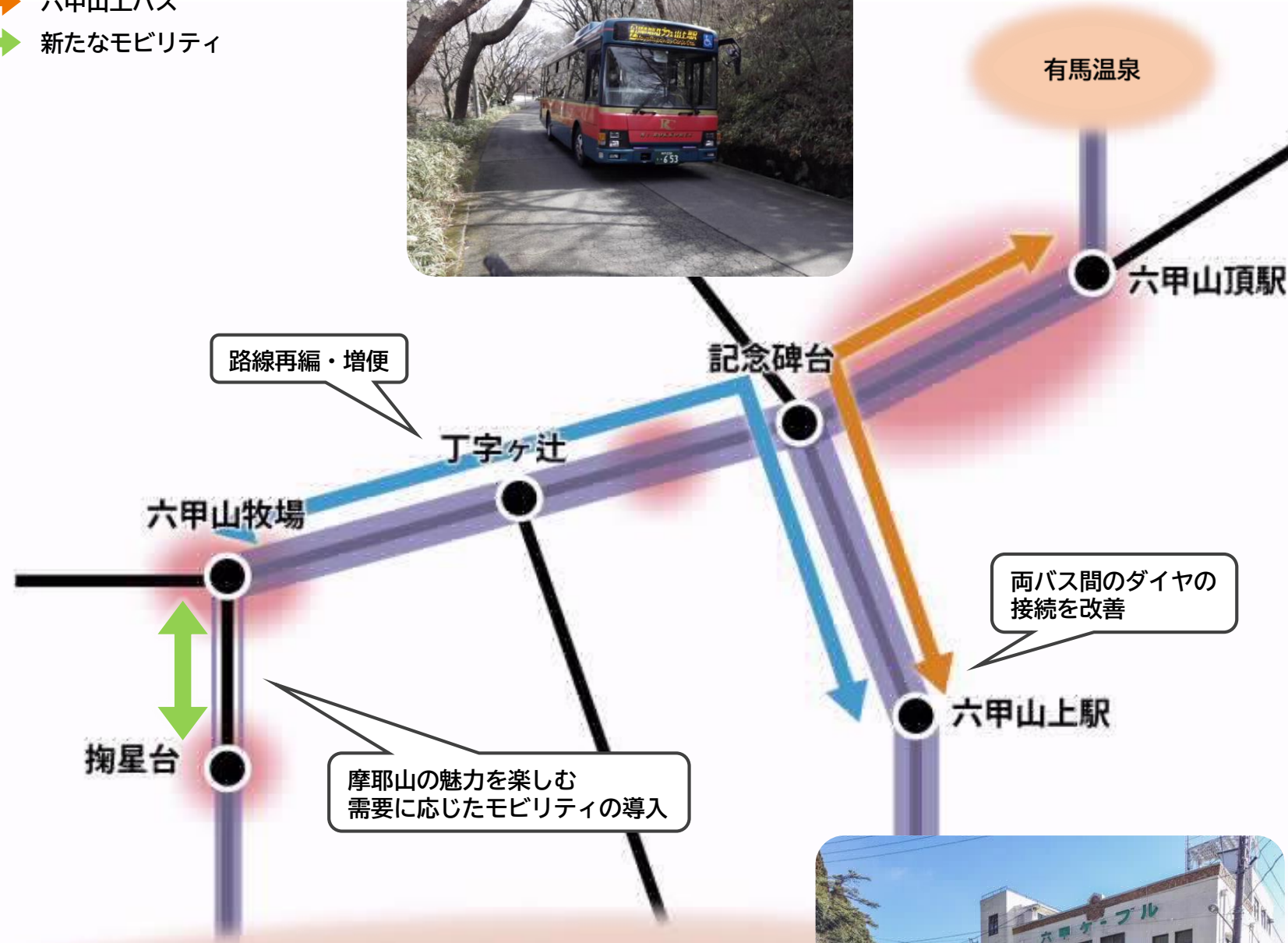
##### 「グリーンスローモビリティの運行」

六甲山牧場～掬星台では、乗って楽しい低速の小型電動車グリーンスローモビリティを運行※  
 ※2022年は無料、2023年は有料で運行

#### (効果)


来訪者へのアンケート調査の結果から、各取組の実施により、回遊性向上、立ち寄り箇所数・滞在時間（＝消費金額）の増加を確認

-  六甲摩耶スカイシャトルバス
-  六甲山上バス
-  新たなモビリティ



市街地部



 公共交通軸

 需要

# 取組方針 2

## エリア特性や需要に応じた 山上交通の充実

### 取組内容

来訪者の山上での回遊を促し、更なる活性化に繋げていくためには、山上を自由に往来でき、スムーズに移動ができるよう、山上交通の充実を図る必要がある。

また、バス事業者を取り巻く状況が厳しい中、エリア特性や需要に応じた最適な役割分担のもとで、公共交通を再編していくという視点も求められる。

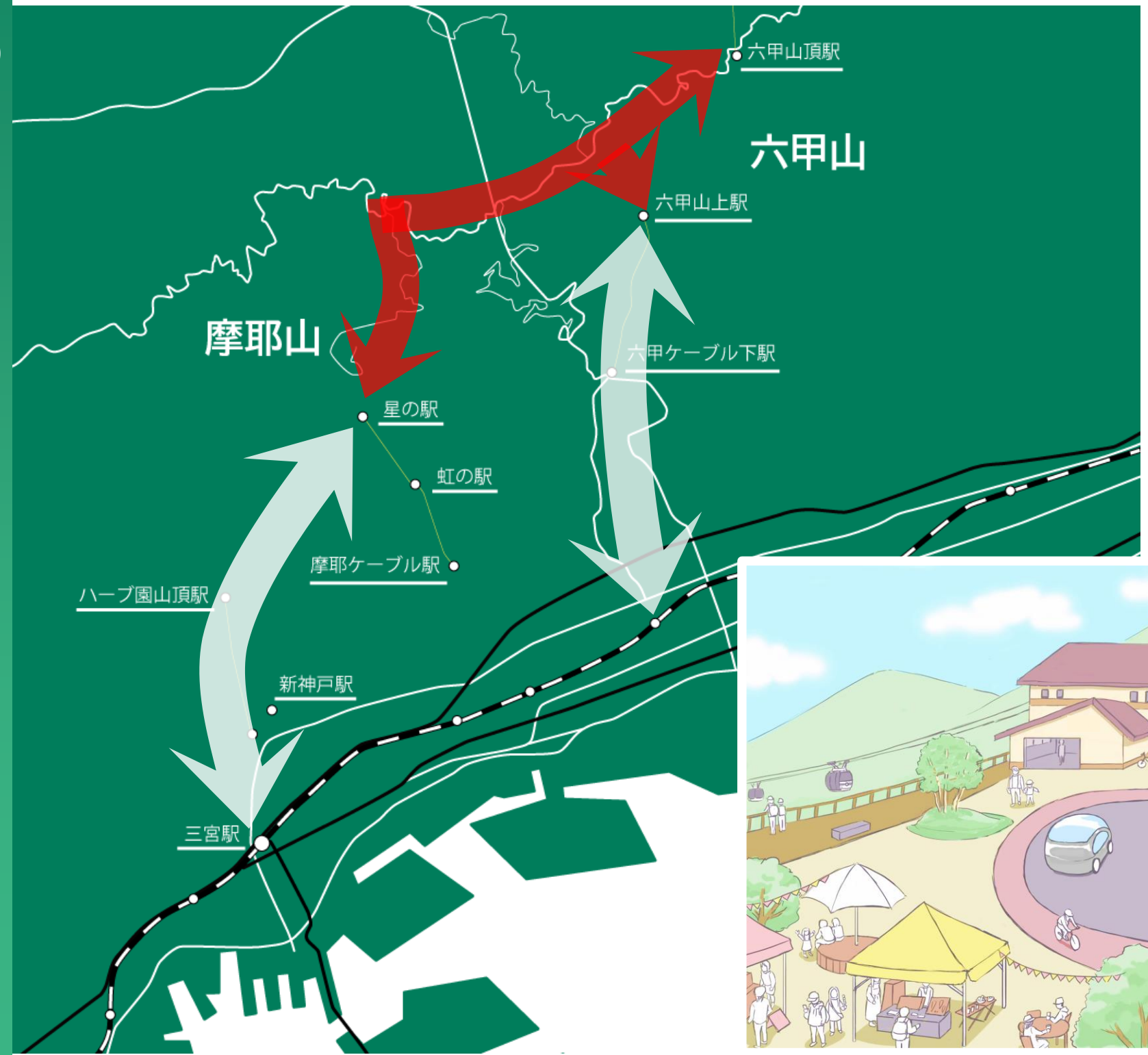
中長期的には、新たなロープウェー「ハーブ園接続ルート」の整備や摩耶山上の再整備などにより増加が見込まれる来訪需要を、六甲山・摩耶山全体の活性化につなげるため、山上の東西の公共交通を充実させ、回遊性を向上することが望まれる。

中長期

中長期

### ◆ 山上における需要の動向にあわせた公共交通の再編

- ハーブ園接続ルートの整備等による需要の増加にあわせ、更なる山上の東西の回遊性向上を促進するため、掬星台から六甲山上へと繋ぐ公共交通を再編
- 運転手不足の深刻化により、需要の増加にあわせた増便への対応が難しい場合は、法規制や技術革新の動向を踏まえ、自動運転車両を導入
- 交通結節点となる掬星台などにおいて、公共交通を利用しやすくするため、待合環境やバスの回転地などを整備



# 取組方針1と取組方針2 の実施により期待される効果

中長期

## ハーブ園接続ルートの整備とあわせた 中長期的な山上交通の再編による効果

ハーブ園接続ルートの整備は、建設投資による経済波及効果のほか、神戸空港や都心・ウォーターフロント等からもアクセスしやすい新幹線停車駅の新神戸駅と直結することにより、国内外からの来訪者の増加につながるという効果が期待される。

あわせて、摩耶山と六甲山を結ぶ山上交通を充実することにより、六甲ケーブルからの来訪者に加えて都心からの新たな来場者が山上を回遊し、観光消費額の増加や山上での更なる投資の促進につながる。

そして、これらの取り組みにより、「海・まち・山が近い」という神戸の都市ブランドを、さらに向上させる効果が期待される。

### 期待される効果

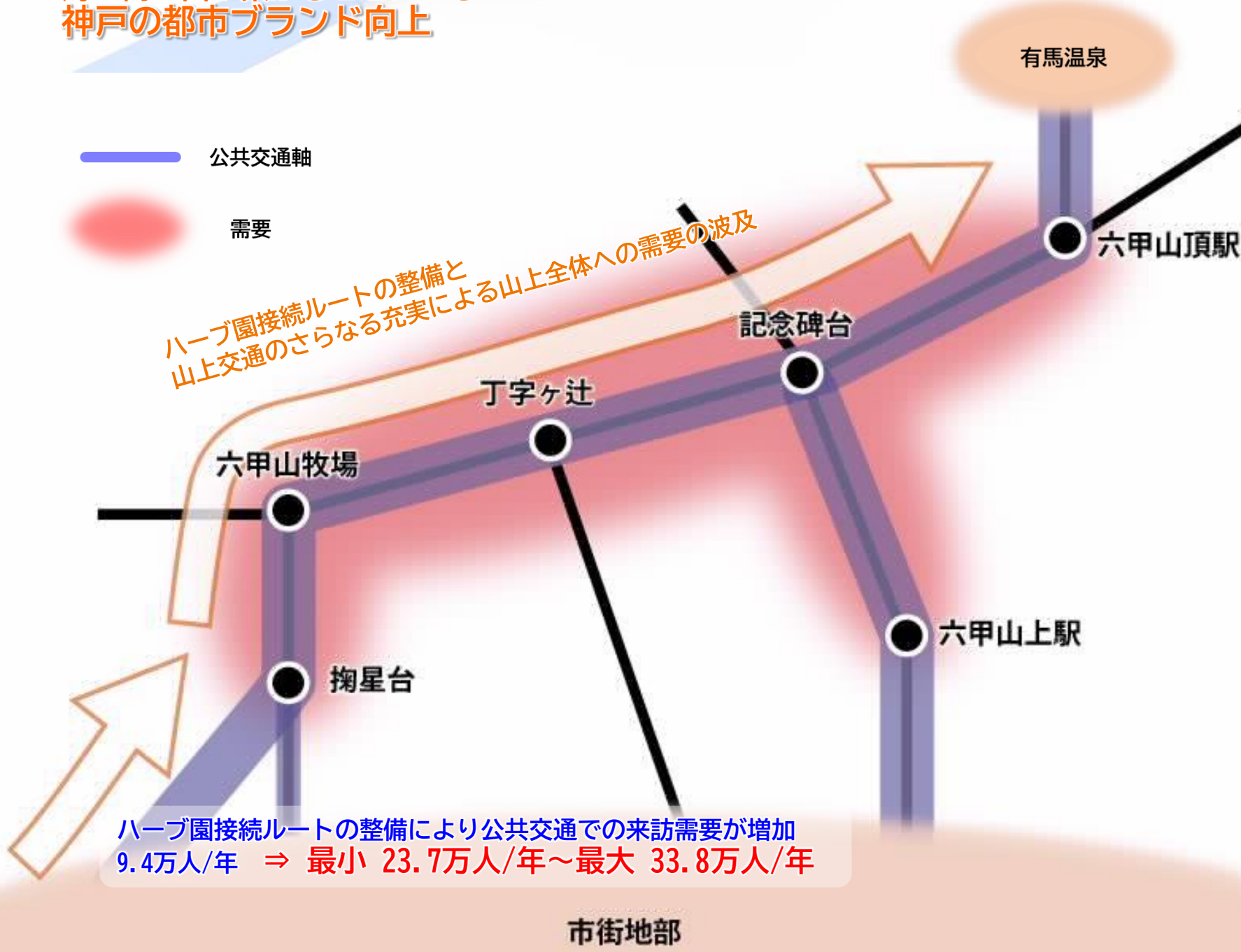
建設投資による  
神戸市内への経済波及効果

新幹線駅と直結することによる  
国内外からの来訪者の増加

新規来訪者による  
山上での消費額の増加

山上の観光消費額増により  
さらなる投資が促進

海・街・山が繋がることによる  
神戸の都市ブランド向上



# 取組方針 3

## 繁忙期の渋滞抑制に向けた 適正な自動車利用の促進

### 取組内容

六甲山・摩耶山への交通手段では自動車の分担率が高く、特に繁忙期においては、特定施設周辺で駐車場への入庫待ちによる渋滞が発生し、自動車のみならず公共交通も身動きができなくなる状態となっている。山間部であるという地形的な制約により道路拡幅等の対応が難しいことから、繁忙期においては、渋滞抑制に向けて、山上における適正な自動車利用の促進を図る必要がある。

そのためには、山上の駐車場について、料金設定や情報提供などの工夫により適正な利用を促すとともに、駐車需要に対して供給量が不足している場合は、駐車場の拡張などの対応が望まれる。

また、繁忙期には、山麓や山上で自動車から公共交通に乗りかえて回遊するパークアンドライドを促すことも効果的である。

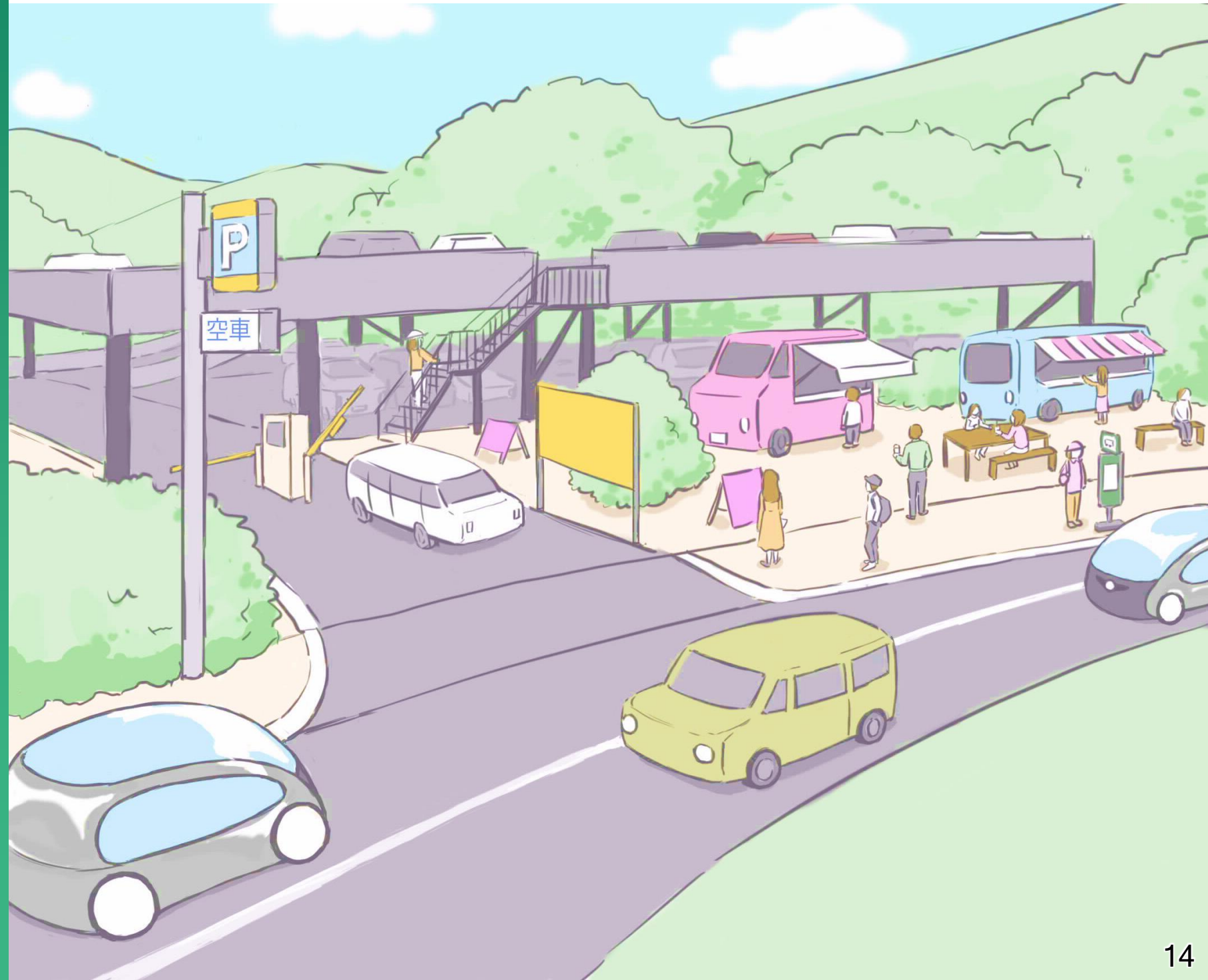
なお、適正な自動車利用の促進には公共交通による回遊性の向上も必要であり、他の取組方針と連携した取り組みが求められる。

### ◆ 駐車場の適正利用の促進と駐車需要への対応

- ・ 繁閑に合わせた柔軟な駐車料金の設定や、駐車場の満空情報の提供などにより、駐車場利用を適正化
- ・ 繁忙期に供給量が不足している駐車場を拡張
- ・ 摩耶山再整備とあわせた掬星台付近における駐車需要への対応

### ◆ 山麓や山上でのパークアンドライドの促進

- ・ 繁忙期における特定施設周辺での渋滞対策として、山麓や山上の既存駐車場でのパークアンドライドを促進
- ・ 公共交通や山上施設と連携した利用特典など魅力的な要素を加えることにより、新たな交通行動や楽しみ方を創出



# 取組方針4

## 交通と山上施設の連携による 一体的なサービスの展開

### 取組内容

山上での回遊を促進するためには、交通手段と、観光・宿泊・食事・ビジネス等といった目的地となる山上施設とが連携し、企画乗車券やサブスクリプション※などの一体的なサービスを提供することにより、六甲山・摩耶山全体をワクワクする1つのテーマパークとして楽しめるような仕組みづくりを行うことが重要なポイントである。

また、六甲山・摩耶山の活性化に向けて持続的な取り組みを進めるためには、これまで以上に山上事業者同士の連携を強化するとともに、安定的な財源確保の仕組みを構築することが望まれる。

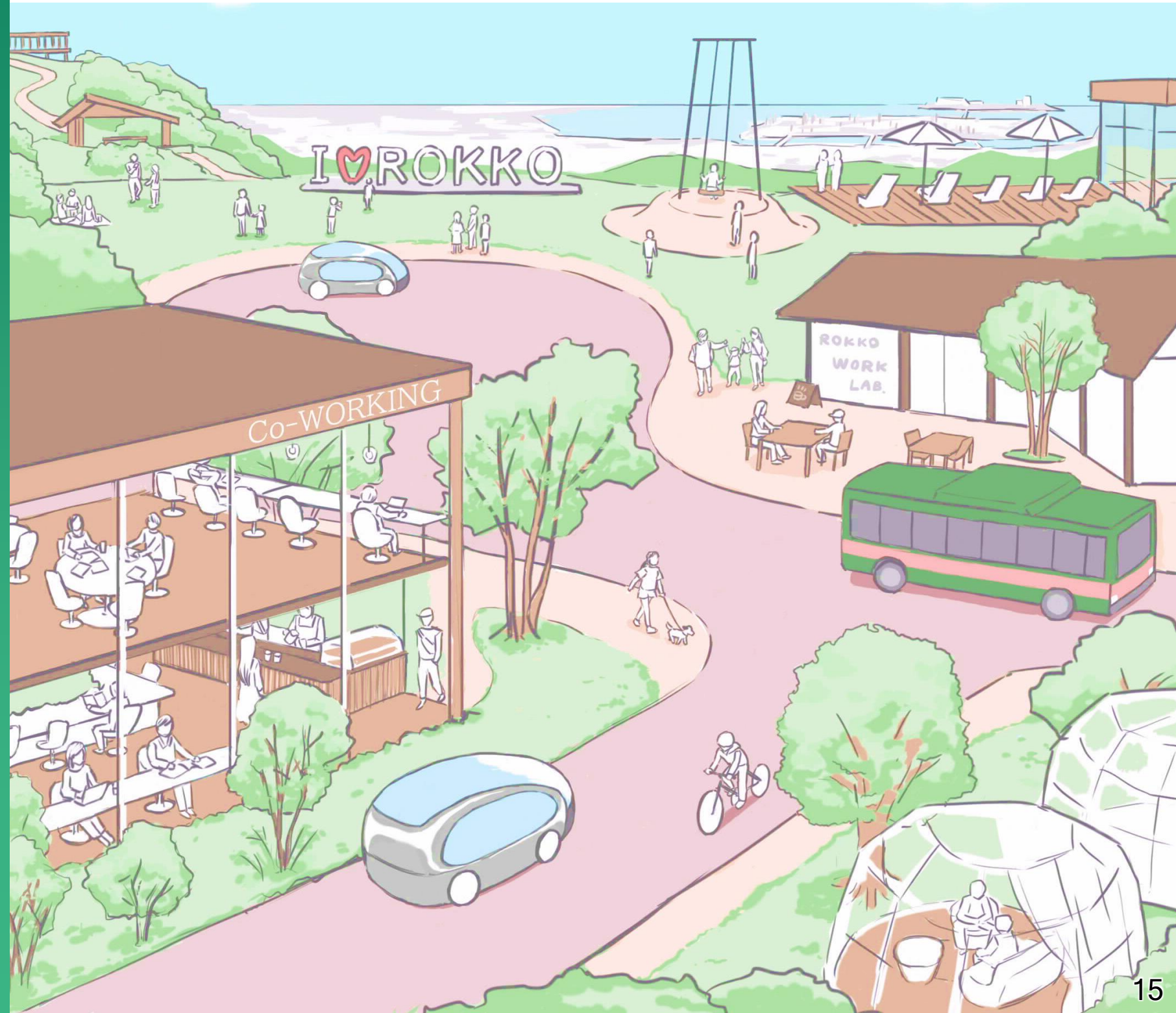
※：定額で使い放題のサービス

### ◆ 交通、観光などのサービスを一体的に提供するMaaSの推進

- ・現金以外でも支払いが可能となるデジタル化を進めるとともに、複数の交通や山上施設、さらには市街地部の施設などとも連携し、企画乗車券やサブスクリプションなどの一体的なサービスの提供により、分かりやすく、使いやすく、お得さを感じるMaaSを推進

### ◆ 六甲山・摩耶山の活性化に向けた体制の強化

- ・六甲山・摩耶山活性化に向けて持続的に取り組むため、六甲摩耶観光推進協議会の体制を強化





# 将来イメージ

六甲山・摩耶山をひとつの「テーマパーク」と捉え、市街地から山上へスムーズにアクセスができ、山上を自由に移動できる交通環境づくりにより山上全体の活性化を目指す。

